

1 学校教育目標

人権尊重の精神を基調とし、生涯にわたり主体的に学び続ける人間性豊かな児童の育成を図る。そこで、知・徳・体の調和と統一のとれた児童、広く国際社会に貢献できる社会人となるための基礎を身に付けた児童、将来の選択肢に幅広い可能性をもつ児童の育成を目指し、次の教育目標を設定する。

- よく考え進んで行動する子
- 思いやりのある子
- からだをきたえる子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	◎明るく楽しく安全な学校 ○児童一人一人の人権を尊重し大切にする学校 ○授業改善、研究、研修に力を入れる学校 ○保護者や地域から信頼され、協力、支援される学校
○児童・生徒像	○よく考えすすんで行動する子…すすんで学習し、学び方や考え方を身につけ自らの力で課題を解決する児童 ○思いやりのある子…時と場に応じた挨拶や返事ができ、礼儀正しく明るく思いやりの心もち、お互いの気持ちを考えながら共に励まし合い助け合う児童 ○体をきたえる子…進んで運動し健康に気を付けながら、たくましく活力のある生活を営む児童
○教師像	○児童の健全育成に全力を注ぎ、児童に敬愛され、保護者・地域に信頼される教師 ○授業改善に努め、新しいことにチャレンジし、充実した授業を展開する教師 ○自己研鑽に励み、努力を惜しまず、実践を大切にする教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

《学校の現状》

- 児童は、明るく素直で、休み時間には校庭で元気に遊ぶ子が多い。挨拶当番を決め、年間を通して毎朝校門に立ち登校してくる児童に声をかけ、朝の挨拶の習慣の定着化を図っている。校内での挨拶や返事・基本的な生活習慣についてもだいたい定着してきた。学習用具の忘れや宿題忘れをする児童が固定化されつつあり、担任からの指導の強化や保護者との連携をより図っていく必要がある。
- 教職員は教材研究・授業や行事の打ち合わせ等を熱心に行い、足立スタンダードをもとに問題解決学習を中心に児童一人一人に応じた指導を心がけている。27名の教員のうち、経験が自校のみの教員も三分の一いるが、お互いに協力を惜しまず、児童に正対しまじめに取り組んでいる。

《前年度の成果と課題》

- 基礎的・基本的な学習内容の定着
放課後の「平野スキルアップタイム」や補習教室によって、基礎的・基本的な学習内容の定着を図ってきた。また、学習内容の理解に時間がかかる3、4年児童には、そだち指導を、区の学力調査で目標値に達しない児童に対しては夏・冬・春の長期休業中に補充教室を実施してきた。児童全体の基礎基本の定着度の底上げができてきた。通過率も向上し区の平均を上回った。理解できない内容をそのままにせず、放課後補習等を継続し、さらなる基礎学力の定着を目指す。教員は登校時校門や教室で児童を迎えたり、「わかった」「できた」授業を展開するために教材研究をしたり子供のために努力を惜しまない。若手教員が多いので授業力・指導力の向上が必要である。教科指導専門員による指導を真摯に受け止め、授業改善に努めさせる。家庭学習に一定時間取り組む児童が増えてきた。宿題や自学等家庭学習の習慣をさらに定着させる。地域の環境や自然・人を活用した学習や体験活動をさらに充実させる。

○心の教育の充実

年間を通した挨拶運動の実施で朝の挨拶や廊下等での挨拶はかなりできるようになってきた。挨拶に対する保護者からの肯定的な評価は84%だった調査した10項目の中では、まだ一番低いため、朝や帰りだけでなく日中もふくめ、さらに大きな声で自分から挨拶ができるようにしていく。

・教員一人一人が足立スタンダードによる授業実践を通し、授業改善・指導方法の工夫に努めた。4月に実施された区学力調査では、通過率が86.5%で区平均を上回った。放課後「平野スキルアップタイム」を継続し、学力調査の結果をもとに学力向上委員会が中心になって計画を立て、各クラスで放課後の補充学習をしたり、担当教員による補習教室を実施したりするなどして、さらなる学力の向上に向けて取り組んできた。区学力調査を活用した2月の現学年調査では、通過率が80.5%だった。3月と春休みに復習を重点的にし、子供たちの基礎学力の更なる定着を図ってきた。

・小中連携について、ペアを組む小中3校で年度当初に立てた計画についてほぼ実施できた。今年度も3校で計画を立て実施する。

・毎日課題を出し、家庭学習は定着した児童が多いが、さらに自主的に家庭学習ができる児童を増やしていく。

・子供たちの総年間読書冊数は、60000冊を突破し、一人あたりの年間読書冊数は、平均130冊を達成した。

4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		29	30	31	32	33
1	学力向上を推進する	○	○	○	○	○
2	豊かな人間性を育成する	○	○	○	○	○
3	家庭・地域との連携を図る	○	○	○	○	○

5 平成31年度の重点目標

重点的な取組事項－1	学力向上を推進する	
A 今年度の成果目標	平成31年度区学力調査目標通過率と年度末の到達目標	
児童一人一人の基礎学力の定着、思考力・表現力の向上	4月－80% 年度末－95%	
B 前年度の取組み内容		
項目	具体的な方策	
・基礎学力の定着	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後「平野スキルアップタイム」「放課後補充教室」を継続し、全体の理解力の底上げを図る。長期休業中の補習等も実施し理解させる。 ・そだち指導員により、学習内容の理解にややつまずきのある児童の底上げを図る。 ・単元終了時の確認テスト実施後、学習内容の定着度、習熟度を確認するため観点別にポートフォリオをつけ、個別指導に生かす。 ・単元終了時等において、学習ソフトを活用し学習内容の定着、習熟を図る。 	
・授業力・指導力の向上、足立スタンダードの徹底	<ul style="list-style-type: none"> ・副校長・主幹教諭・研究主任・主任教諭を中心に年間計画を作成し、教科別分科会と授業研究を6回実施する。 ・管理職による授業観察と事後指導をする。 ・教科指導専門員による指導を受ける。 ・区小研への全員参加、分掌に関わる研修以外に、区や都の研修会へ1人4回以上参加させる。 	
・家庭学習の徹底、自主学習と読書活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字、計算の課題を毎日だす。 ・朝読書（週30分×35週）1050分を実施する。 ・読書旬間、読書月間を実施し、読書活動を奨励する。 	
C 前年度の成果と課題		

- * 区の学力調査では、
 - ・ 4月の通過率 国語－84.6% 算数－88.3%
 - ・ 1月の通過率 国語－98.2% 算数－94.2% であった。
 国語では、13.6%、算数では、13.1%の伸びであった。
- * 2月に実施した、現学年の調査では、通過率が 国語－79.7% 算数－81.3%であった。概ね良好な結果だったが、不十分な学年や児童も少なくない。今回の結果を維持しさらに伸ばすため、現在復習を重点的に実施し、春休みも補充教室を行い、基礎基本の確実な定着を目指していく。
- * 平野スキルアップタイム、放課後補充教室が定着し、基礎基本の定着が図られつつある。
- * 校内での研修、授業観察、教科指導専門員による指導を通して、各教科や領域の授業力・指導力の向上に取り組んだ。
- * 校内研究として小中連携に取り組む年間8回の研究会、学校として6本の研究授業をした。問題解決型の授業、話し合い・伝い合いの場の設定等、足立スタンダードによる指導技術が向上した。
- * 積極的に読書をする児童が増えた。今年度の全校児童の読書総冊数は、62604冊(年度末)。
- * 忘れずに宿題をしてくる児童は、95%である。宿題以外の家庭学習をする児童は少しずつ増えている。

解決の方向性

- ・ 単元毎に定着度を確認し、記録に残す。
- ・ 学習内容の理解が不十分な児童に対して、放課後、長期休業中等を活用し、組織で計画を立て、補習を行う。
- ・ 「平野スキルアップタイム」により、さらなる児童全体の基礎学力の定着を目指し個別補習を行う。
- ・ 小中連携で教科ごとの分科会を中心に、9年間を見通した指導について研究し、授業力の向上と中一ギャップの解消を図る。
- ・ 次年度も区小学校教育研究会や各種研修会への参加を通し、授業力や指導力の向上を目指す。
- ・ 家庭学習のさらなる定着を図る。
- ・ 平成30年度の実績から読書冊数の年間目標を新設するなど、読書活動をさらに推進する。

D 今年度の目標実現に向けた取組み

項目	達成基準	具体的な方策
----	------	--------

別紙「平成31年度 学力向上アクションプラン」参照

重点的な取組事項－2		豊かな人間性を育成する
A 今年度の成果目標		達成基準
様々な人との関わりを通して思いやりの心を育成する		学校評価項目、子供は、明るく元気に学校生活を送っている95%以上
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
縦割り班活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 縦割り班遊び年18回 ・ 縦割り班給食年2回 ・ 縦割り班集會年3回 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 土曜授業日のある週の中休みを縦割り班遊びの日に設定し、土曜授業日の中休みを30分間にして縦割り班遊びを十分とる。 ・ 給食部、特別活動部の年間計画の中に縦割り班活動を明確に位置づける。
幼稚園、保育園、中学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童・園児・生徒の交流 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校行事の見学、給食体験、1年生との交流や保育体験をする。 ・ 学校図書館の利用や読み聞かせ体験をする。 ・ 中学校での一日体験をする。 ・ 百人一首大会前に、中学生との合同練習をする。 ・ 吹奏楽の合同練習・発表会をする。 ・ 長期休業中の小学校の学習教室等に中学生が〇付けボランティアとして参加する。
道徳の授業の充実と 挨拶運動等の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の授業の充実 ・ 学校評価項目、子供は家庭や学校でよく挨拶をしている87% 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道徳の年間指導計画に重点として、親切、思いやり、生命の尊さ、友情、信頼等を位置づける。 ・ 朝と帰りだけでなく日中の挨拶について

	・オリンピック・パラリンピック教育の推進	て強化する。 ・年間計画に基づく確実な実施をする。
--	----------------------	------------------------------

重点的な取組事項－３		
家庭・地域との連携を図る		
A 今年度の成果目標		達成基準
家庭・地域との連携を密にし、信頼される学校を目指す。		保護者の学校評価10項目においてプラス評価の平均96%
B 目標実現に向けた取組み		
項目	達成基準	具体的な方策
基本的な生活習慣の定着	・保護者の学校評価10項目においてプラス評価の平均96%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者全体会・学校便り・専科便り・学年便り・学校HP・学校説明会・PTA広報誌、校門前掲示板等で教育活動を発信していく。 ・生活調べの各月の結果を学年便りに掲載し、基本的な生活習慣の定着について保護者に啓発する。
環境教育の推進	・エコキャップ活動への参加	<ul style="list-style-type: none"> ・学年便りや担任の呼びかけで、エコキャップ活動への意識を高める。回収量170kg。 ・給食の残滓率2.7%以下
開かれた学校づくり協議会・学校運営協議会の活動の推進	・活動の活発化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会を開かれた学校づくり協議会の運営委員会として位置づけ、各部の活動を明確化し年間計画の立案や進行管理をする。 ・土曜授業日には、パソコン学習のボランティアとして参加要請する。 ・土曜事業として着付け教室、そろばん教室、理科教室、スポーツ教室等を計画実施する。